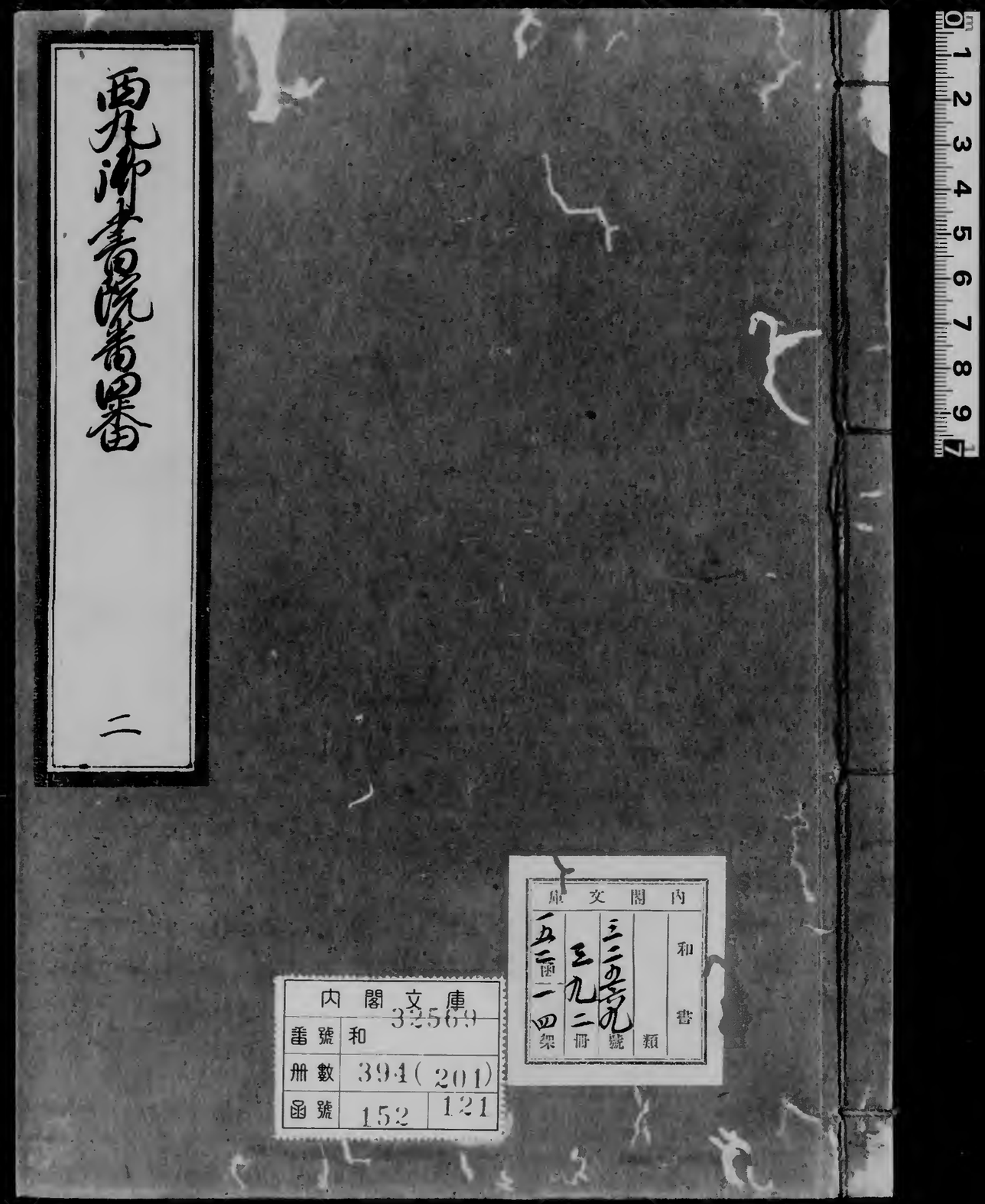


兎御書院書畨

二

内閣文庫
32569
番號 和
冊數 394(201)
函號 152 121

内閣文庫
和書
類
三二五九
號
五九二
冊
一五二函一四架

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄四辛未十二月二日

御書院番戸田對馬守組　三百俵　松平教馬正常

百人組与力　松平内記殿御膳奉行

後二百五拾石　改　宮本馬之助　茂久命　お稽古下野守

元禄六癸酉年　四月廿三日　厩番衆三百俵ニ被仰付

元禄六癸酉年　初路城番ニ被仰付

元禄十丁卯年　十二月九日　隠居　二百五拾石ニ

この三百俵八返上ニ成る

元禄十四辛巳年　六月廿五日　御徒目付ニ被仰付

引渡市兵衛　大番ニ成る　七月朔日　御目付ニ被仰付

元禄壱乙丑年十二月十日御中性御書状

享保四亥年十二月十日御書状

享保四亥年十二月十日新御書状

享保四亥年十二月十日亟業之亟乃
日光代参使之命ゟ三月廿八日
御ゟ渡申

享保九辰年四月廿八日小笠原御上洛
享保十乙巳年四月十二日
享保十乙巳年六月二日 法花経之意
作之事

同年十二月廿八日報恩寺法作出相模ゟ改
享保十乙巳年八月廿日西街道駅次乃
事行之意作之事

享保十乙巳年九月二日御小性御書状

同年九月廿日御給仕乃肝煎之
命ゟ

享保十八丑年四月廿八日尾州侯
之命ゟ 六月朔日御服美金
拾之儀 六月廿八日御ゟ渡申

享保十八丑年八月廿七日御書院書状

享保十九寅年十二月十二日移易之命ゟ

享保二十卯年十二月十日教仕之料
之儀之儀

元文四巳年七月吉日奉上申候

元禄四未年十二月二日

御書院番戸田對馬守組 高橋 日向伊賀殿 西和田殿

後三年八月 故 中奥

元禄六申年四月廿三日 庵原三右衛門 元禄六酉年秋 強盗の影響と考へる

元禄十寅年十月九日 晴 二人出合 三人帰

元禄十二卯年四月晦日 地頭相別 懸の沢に

温泉湧出と考へ申候

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]月十日病る
元禄十六未年秋腫物の症を患ひ
寅永二百年八月廿二日死二十九歳

元禄[illegible]未年十二月二日
御書院番戸田對馬守組　三百俵　梶四郎右衛門　西谷
[illegible]元祖[illegible]元禄[illegible]年[illegible]月[illegible]
後[illegible]
元禄[illegible]年[illegible]月廿三日[illegible]
元禄十[illegible]年十二月廿九日[illegible]
三百俵[illegible]奉り[illegible]
三百石[illegible]

寅永[illegible]年[illegible]月廿二日[illegible]
同年[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]

三月廿八日御帰洛

寛永六年十二月十九日布衣之儀ニ付被仰出

寛永七年八月廿三日諸国巡検使ニ

命ぜられ九月朔日東海道ニ向ひ

江戸ニ着して明の寛永三年三月朔日江戸

発令ニ付時服二領ニ羽織ニ領ハ八月朔日

帰洛

正徳二辰年三月廿六日野州壬生城

引渡ニ付用人ニ大学ニ而ハ六月廿六日江戸

発令ニ付ニ領ハ六月朔日帰洛

正徳四午年七月廿八日御元服

享保十九寅年三月十六日西城ニ而

月番ニ付年号改元之儀ニ付三月朔日西城ニ而

寛延二巳年六月廿八日江戸御奉行

宝暦元未年十二月三日老中附時服ニ領

宝暦二申年六月十六日死

元禄四未年十二月二日

中人院朝倉左京亮殿宗行卿子

御書院番戸田對馬守組　三番隊　朝倉左京亮景孝

後事帝

元禄六申年二月廿三日　廣島藩三番隊ノ傷ノ

元禄六申年十二月廿二日　依　桐間内書

元禄六酉年二月三日　御小納戸

元ノ所ハ知ラズトモ云サル事

宝永二乙酉年三月廿八日　躑躅ヶ石ヲ乞フ

三番隊八番ノ事

宝永六丑年二月廿二日　一統ヲ以テ　長命ヲ祈ル

享保二十年二月廿九日御使番
同年三月廿日大坂御留守御大番
明の時年四月廿三日御服美濃拾之傷
十月朔日病ゟ御暇
享保六辛丑年三月廿日御先手弓
享保十年乙年三月廿日大御番頭の時
御番頭と勤先但の時御留守役
ゟ御番頭ゟ御暇
享保十二未年八月朔日甲辰年日光
御代と命ゟ明の甲辰年四月廿日旅
の時自殺ゟ傷ゟ御使番ゟ御暇
享保十六亥年九月廿二日死

元禄四年十二月二日
御書院番ゟ田村馬守組 三百俵 坪内忠蔵
元禄四年十二月廿三日病死ゟ傷ゟ

元禄五申年三月十八日

延宝八申年　月　日　酒井忠寛

当家十帝勝豊之助　忠俊ゟ和

御書院番元田対馬守組　元禄小性

酒井左京亮勝俊

元禄六酉年秋之頃ゟ十六年秋迄乃

中間五ヶ年ゟ

四德元申年四月廿六日吹上ゟ大雨降焼

ゟ

六月廿日同所ゟ乗馬育て同月

十日廿年八百ゟ毛ゟ黄金ゟ出ゟ

四德元年秋迄慶の家重小姓

享保八卯年三月十二日家重ゟ十七ゟ同

上の御年貢ハ共金ニ成と申ス

享保十年十二月七日

竹姫君様御用人

同年十二月十二日百姓共願ニ出ル

享保十四年六月晦日死亡仕候

元禄四申年三月十日　長谷川帝　辰年生

書院番ニ而対馬守組　長谷川長谷川長谷川重賢

元禄十五年庄屋四郎治郎田村乃ニ成

御用ゟ出て帰り申候ハ年内ニ田ニ彼

乃林村ニ為成村ニ成ル公儀ニ成ル

元禄十六癸未年二月九日死亡仕候

元禄四申年十月廿五日

元禄二年巳年十月廿五日家督

御書院番之内 内藤馬守組 高橋 岩本孫兵衛 植豊

隼人義豊弟

元禄六酉年秋日光御宮御造営ノ為

清水家ヘ

西徳寺年七月廿五日稚入松平伯耆守組

享保四亥年八月廿日為任丹羽左兵衛尉

享保十丙申年十二月廿九日死 五十八歳

元禄六酉年四月十九日

元禄三午年　月　日踊月　　金子帝膳行養子
　　山養子儀

御書院番戸田對馬守組　千石　細井金子帝膳通

元禄九子年四月廿日　御使番

同年九月廿六日　御役を去年ゝれ中根
大隅ゝ組の山養儀ゝ入ゝる

元禄十六未年六月十日死　三十八歳

元禄六酉年十月十九日　江原主殿頭　金村兵庫
　　中根市左衛門　佐藤弥次右衛門

元禄四未年十月廿五日　御書院番ヶ田対馬守組　千石栗　江原源三郎　金丸
　　政右衛門

元禄八亥年四月十日　桐ヶ岡市蔵

同年秋　浅野内匠頭の宿直を勤る

同年六月十三日　御近習番

同年七月十日　御使番

同年九月廿七日　元御書院番ヶ田対馬守組ヶ岡市蔵

元禄六酉年十月十九日

久三帝西園寺
実隆卿孫
実條卿

元禄二巳年七月十日ゟ和

御書院番戸田對馬守組　高橋　長谷川久左衛門　傳兵衛

元禄十酉年今ゟこの家系と定る

以後落る

宝永三戌年稟入久貝内膳守組

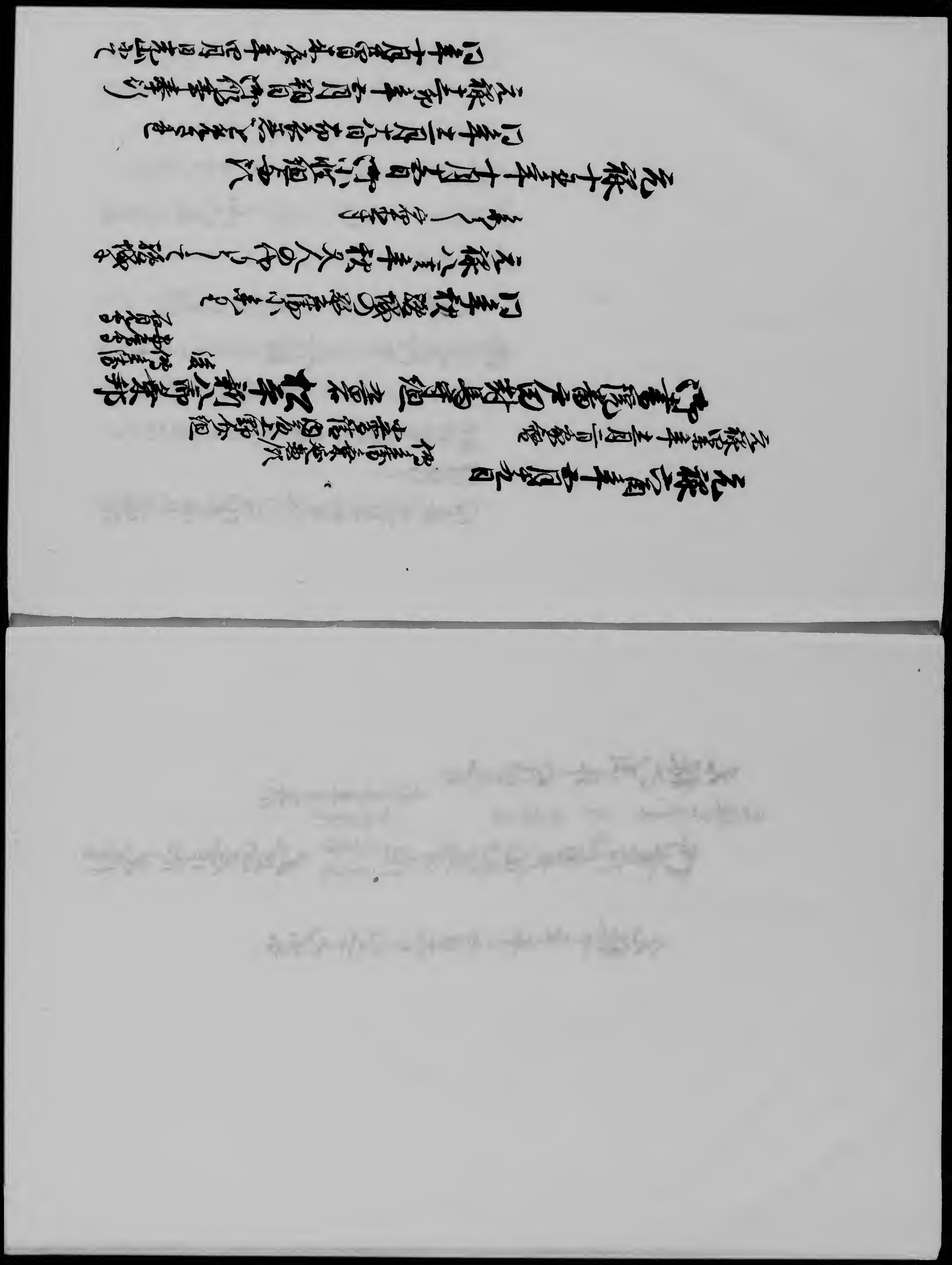
享保元申年十月廿六日死　六十八歳

元禄六酉年六月十九日　　忠昌卿忠之養嫡

元禄元辰年　月　日跡目　　小姓組

御書院番士内村馬守組　千百石　三十嘉　大学忠昌卿忠種

元禄十丑年三月十日死二十九歳



国立公文書館
National Archives of Japan

大猷廟五十回の御追福と称せらるゝ八百部
御法華の御用を命ぜられし内の春三月
日光山に来て御用をつとめん
元禄十六年三月廿二日大小御没と称した
ものとそせしめの作と称し御賀三百石
九月三百石
元禄十六年三月廿日日光の
御宮と称せらるゝ八横ふして来る
色き作と称し日光山西脇美今
坂附脇に祖父と称し宮月十二日ゆゝく
作物
同年十月廿三日今度地震にて破壞
せし門石垣等を修補せしき作と
称し
宝永元甲申年十月二日久能山
御宮と称せらるゝ奉行と命ぜられ
宝永元甲申年十月十日久能山に西脇弘
作出叡尊ゆつく南蛮寺と改る日
美今坂附脇と揚し十月廿日ゆりて
作物
同日久能山の
御宮と造り出せし観音とゝ
美今と坂と称する
宝永二乙酉年二月廿八日大同寺

宝永六丑年九月十二日 改十二月

常憲廟周忌の法会の御用と仰せ付られ

正徳元卯年七月四日 東街道を換へ

て播列参詣之事 但し伊勢と参

同十二日 市脇美濃守殿 切腹之御咎蒙る

九月十八日 御法事 御延引

正徳二辰年六月十八日 方限帳の外

と仰せ付られ

同年閏三月 同苗左門 桑色の書付

一該のことを断り事と記明有て

通塞すべきと伊勢出十月八日免さる

同年十二月 有之 年二月

長昌院主乃京面の御法退去と被仰付

御用と仰せ付られ

享保元申年六月二日

将軍家 薨ぜられ八月 御法会乃

御用と仰せ付られ

享保六丑年二月 再来 ありて

預と仰せられ

享保六丑年二月七日 如願免さる 是

この年 氏職 賜る 左京大夫

叙 と 仰せ付られ

同年十二月十二日 勅使 参内 御

祭 と 仰せ付られ 道 宣 と云

享和元年六月朔日年八十二歳

元禄六酉年六月廿九日

享和二戌年十二月十日跡目

御書院番戸田對馬守組　番衆　山崎播磨守正純

播磨守正豊弟

出雲守信明弟土野伊勢組

同年秋蝦夷の方出張致し

宝永元申年十二月十日　御入部後御中奥組

宝永六丑年十二月十七日死

元禄六酉年霜月九日　松浦法一帝親鸞橋系墓祖
松浦壱岐守呈道事氏
出家後四条上野女祖

元禄二巳年十月十日婚月

御書院番戸田對馬守組　松浦法一帝自宣

日蓮秋法城の宮殿なり

元禄十五年三月六日丹後国宮津城江渡
御用人名古屋四月末日帰船美濃垂井駅ニ
明後七日九月廿八日海ゝ法隠す
元禄十二卯年十月廿二日面会改之事へき
伊勢と弟ゝ

元禄十三辰年十二月廿三日　壱小面会改乃

事を行ふことを禁ぜらる

元禄十六年癸未年二月十日

元禄十六年二月十日より事始

元禄十六未年二月十日小十人頭を

ゟ之を行ふ事

元禄十六年二月十日小十人頭を

元禄十六年癸未年

同年十二月十八日布衣者を

宝永元年甲申年九月十八日御書院番組頭

享保二酉年九月組頭格の番頭小

番を御眼鏡相撰ふ

享保三戌年十月十日御番を詰

享保三年十月十日

奥詰組一番を勤る

享保五年十月十二日新御番頭

享保七寅年七月十日惣家を惣領

日光名代勅使を大名ゟ出る日光名代

享保九辰年十二月十日西丸新御番頭

享保十二未年六月廿九日死亡二家

元禄六酉年六月九日

元禄元辰年十二月吉日父遠藤之内宗右衛門

御書院番戸田對馬守組　六番　村上次郎左衛門　西仲

次郎左衛門　西仲父宗右衛門　西尚嗣子

なり　小八　西仲　松平出雲守殿　村上出羽守殿　堀田備前守殿　牧野備後守殿

とあり　延宝五丑年　西尚　妻は二人を男子をもとりつけ　兄八郎左衛門　弟八郎兵衛

元禄元辰年十月廿日　西尚　病死　なり

なり　遺書を捧て養子左衛門

西仲は遺跡の内五百石を賜り続と

嗣しめ給ふ當時の御要は三百石
當行ふ御お負は二百石とのたまふ
事なれば三百石に次第屋敷の事
なりて渡御行ふ御ハ事なる
父子実子なれども続と嗣へきなれの
系ハいふも少地を方ちてなせたん
事なれとも為ハ渡御に父子
送臨と為ん事なれハ為ハ
きるもふたりとなれ世事と
なるもきれとも為ハ
れ者乃義後見ふ
有る二月十日渡御要ハ父子

続と嗣しめ千三百石と為ハ次第屋敷
の御お負は三百石とのたまふ事行ふ御
お負は三百石とのたまふハ時父子
送臨のなれ御行ふへきに御
渡御なれ神妙乃ものなれハ御
行ふ御ものなれ別乃
御行ふ事なる

同年秋、強盗の影響ありと
元禄十六年秋、又強盗の影響ある
文政四年八月二日稲入杵木和歌山
文政七年九月廿日死亡

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄十六年八月廿三日浅野内匠
実永四癸未年三月十四日稀入井之対馬守組
享保四癸亥年八月二日為松平常乃丞死
享保五庚子年九月廿二日宗氏のうち
右衛門高信郡八南村沖用地
にて蔵
享保六辛丑年二月廿二日にて
同じく同郡神河村若狭村ゟ下
同年迄切通の郡数六ヶ村八
同年七月廿二日切通の郡沖用地中ゟ
蔵ゟ作り無地つ縁うしろにて下
享保十年年三月廿日死享年六歳

元禄六酉年六月廿日
元禄九年子年七月十四日ゟ和
御書院番戸田対馬守組 三宅 溝口十左衛門常勝
溝口孫左衛門安勝嫡
小笠原信濃守国河内守組
同年秋元禄十六未年秋強盗の番ゟ帰り
同年二月二日老稀入松平弾正組
享保四亥年八月二日為伊丹兵庫支死
享保七寅年二月八日死八十三歳

元禄六酉年五月十九日　春三郎正永
　　小普請大久保玄蕃頭組
　　同玄蕃頭
　　同年七月十日家督
御書院番戸田對馬守組　置候　細井広三郎正雄
　　改　玄蕃
　　春三郎

正徳元卯年六月廿日吟味ヲ以て番馬
　　中務殿
　　吟味の旨ヲ以て番人之一故ニ成る

正徳六申年三月六日　稟入大久保治右衛門組
　　玄蕃頭
享保三年八月廿五日為隠居ヲ願
　　玄蕃頭
享保七寅年閏九月廿六日死

元禄六酉年十六月十九日

元禄四年三月十二日

書院番元田封馬守組　三百石　大屋喜左衛門利隆

改　喜左衛門

同年秋強盗の部屋住の者

元禄十五年閏二月十九日　桐間詰番

同年四月廿二日　御近習番

元禄十三年二月十六日　元御書院番

元田封馬守組に加番

元禄六酉年六月十九日

左馬之丞事出奔

出奔元禄十年正月迄

元禄十年　月　日病死

書院番戸田對馬守組三番後　自澤次右衛門直昌

京保三戌年十二月十八日　釋入牢落牝鹿

京保四亥年八月二日　為駿河守預ケ死

京保七寅年九月四日　死

元禄六酉年六月廿九日

同六年子年七月　日蹄月

書院番之内新馬役組　三人

小姓組大久保玄蕃組

天野三次郎康高

改　三郎

同年秋　殿様の御出府

元禄十六未年秋　殿様の駿府御参府

享保元年八月　日為永井宮内丞

享保十九寅年二月廿四日死

享保十九寅年二月廿四日死

享保元年子年　殿様入松前侯参勤

元禄七甲戌年十月廿三日　　元禄馬場昌森老死

享和二壬戌年十二月十六日　　御近習番

御書院番戸田對馬守組　　番頭　本多昌親

　　法城の影響より事多し

元文五申年六月廿三日死

元禄八乙亥年九月廿七日

御書院番戸田勘兵衛

組千石宛

元禄十六癸未年被遊御[illegible]の[illegible]

宝永六丑年九月廿三日大[illegible]

月廿六日小姓[illegible]

[illegible]

宝永六丑年十月十日[illegible]

[illegible]年十二月[illegible]

元禄十五年二月十八日
自享保元年十二月廿六日 酒井
書院番 石田對馬守組 三百石 小幡主殿頭
中奥御書
享保十九年六月廿六日死去

享保元年六月朔日 聘礼の時引礼の役を命ぜらる
享保三年閏二月廿六日 御目見
享保九年二月廿日 死去

元禄十一寅年二月廿日

三郎九郎廉束之所
御小姓ヶ

元禄六酉年七月廿二日遠月

御書院番戸田対馬守組　三百石　松平三郎次郎康致

元禄十六未年秋西丸御大手秋殿御乃
部屋陽ゟ来り

寛延二年巳年六月廿三日老職福井内記殿之死
宝暦八寅年二月廿二日死七十九歳

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄十寅年三月廿九日　平右衛門弘邦成

寛文十申年　月　日　小雪儀松平[illegible]組

御書院番戸田對馬守組　千石　小栗平右衛門倫

正徳元巳年七月十日　稲入大隅肥前守組

享保四亥年八月二日　右同　[illegible]

享保十九寅年三月二日　元八子二家

元禄十寅年二月廿五日　左七　雲房出羽
小笠原信濃守組
延享六巳年七月十九日　丹波守組
書院番　戸田對馬守組　置藤七次郎　右七
宝永五子年二月十九日　桐ヶ間番
宝永六丑年二月廿日　左七　組　書院番
酒井左衛門尉組

元禄十二卯年三月廿三日

三枝平右衛門守房二男
御小性

元禄八亥年七月廿日分知

御書院番大久保長門守組　三枝右門守隆

改　伊勢守
任侍従

享保十八丑年十月廿八日御徒頭

同年十二月十八日布衣之免さる

寛保元酉年二月十日

禁裏警衛

同年四月朔日御暇願令拝領　附肢之

服喪之儀

同年四月廿三日系部少輔江伺書

伊勢守と改
元亨三癸亥年三月十二日辞して出家
出家よりして寿命を列す
宝暦元辛未年四月三日致仕
宝暦十乙未年十月八日年八十四歳

元禄十六癸未年三月九日
元禄十六癸未年十二月十八日家督
御書院番酒井右衛門尉忠徳跡二千石嫡子酒井忠囿
酒井左衛門尉忠囿
小姓組番酒井左衛門尉忠徳跡二千石嫡子酒井忠囿
同年秋踏絵の命出る
宝永二酉年同四月十八日三嫡山に
清揚廟と造りもうす奉行之命出る
造り始め十月晦日美濃之坂に時服二
羽織を移る
宝永三戌年二月廿八日御侍書
同年六月廿日大猷院様御代御人数を

ら七月朔日沙脈美仝五位を授く
明の三年三月廿八日沒て葬る
寛永四年十二月廿九日布施を命ぜ
寛永六年八月三日強壽に沙同年
三て生さるの仰と蒙り同月十三日
沙脈美仝に対馬と賜る十月廿八日
沒て葬る
正德元年三月十日家列岩樹城
引渡使用と命ぜ三月十日
沙脈美仝に対と賜る同月八日沒て
葬る
正德四年二月廿八日沙先絶ス

享保二年六月十日
有章廟の經を陽と賜る
対馬と賜る
享保四年七月廿八日西郷の西郷ス
享保六年十月十日死亡家

元禄十六癸未年三月九日

元禄十七甲申年十月九日暇

御書院番酒井下総守組　名　井上隼人正組

後　源義
左京

西徳院殿千年三月親日御中性組与氏

享保四己亥年三月二日葬寄合

享保十九甲寅年六月三日死　四十五歳

親類　西殿養子

小姓　酒井主殿頭対馬守組

元禄十六未年三月九日

同十七申年　月　日御目見

御書院番酒井下総守組　三百石　久野織部豊和

西御丸御門番ゟ御免候

小普請井上対馬守組

同年秋跡職の願之通り被下

正徳元卯年秋跡職の内弐百石下さる

享保十九寅年四月三日　番入久留嶋数馬守組

同年十二月廿二日致仕號して一翁と云

延享三寅年五月廿八日　死　六十八歳

元禄十六癸未年三月九日

元禄九丙子年七月九日蹄首

九人帝陸信濃守
少帝長門藤右衛門尉守紀

御書院番酒井右衛門尉守紀　五百石　石谷七郎左衛門清成

同年九月廿日宮諸大夫帝出せしとて
御脇之者ゟ根岸肥後守紀ゟ行く
彼方ゟ行の事とつゝむ咽る事年
九月廿日ゟ帰る
宝永元甲申年四月廿六日信州ゟ落ル吉良
左兵衛ゟ配所ゟ帰ル　むかしく咽しかを
思ひ出きむ文作りて日月ゟ八日

宝永四丁亥年七月廿日御免
同年十月廿日御免書
同年十月廿日右清胤年代ノ明ノ
ヽ二月廿日御免之旨ノ為ノ九月
廿日ノヽ右新之儀
宝永七寅年四月廿日御用ヲ
享徳四乙未年四月廿日元服御用ヲ兼
享保元申年三月廿日御元服
享保六丑年九月廿日死年九歳

元禄十六未年三月九日
元禄十四巳年十月廿三日清胤
新命自信書ヲ
小堂清胤右新ヲ
御書院番酒井市郎右衛門
宝永六丑年六月廿日稗入ニ成
享保四亥年八月二日為用ヲ兼ヲ
享保十四酉年十月廿日死年二十五歳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄十六癸未年三月九日

清子帝豊臣忠成
小夢清清白杉清を組

貞享四卯年七月十日御書院番酒井右衛門尉忠直三千俵八木清十郎為豊

同年秋法眼の宿坊へ参る

宝徳元癸未年七月十日稲入杉木周防を組

宝保四甲子年八月二日為有馬内膳之死

宝保二壬申年八月十日死亡三歳

元禄十六未年三月九日

八郎左衛門負債出奔ス
出奔後溝口藩ニ寄留ス

元禄十七申年十月九日病死

御書院番酒井左衛門尉

西郷左門利貞

段
本丸
孫左衛門

同年秋西郷右馬之丞

系図

元文四未年三月病死

寛保二酉年十月十日死 六十七歳

元禄十六未年三月分

（抹消）勘定奉行

元禄十五年十二月十日帰宅

（抹消）

御書院番頭并小姓組　八百石　黄瀬太郎兵衛

（改抹消）

宝永四亥年四月廿九日西丸

西徳元卯年九月七日　御小納戸

西徳二庚年十二月十日布衣之儀ニ被仰付

享保元申年四月十二日一統ニ被仰付

享保四亥年十二月廿日　御徒頭

享保十三申年十二月廿日西丸の御徒頭

享保十六亥年二月七日　西丸の御目付

享保十七子年十月十八日 西條の[illegible]氏
寛保二戌年九月廿日 死

元禄十六未年三月九日
元禄十三辰年 月 日歸
御書院番酒井下總守組 高五百石 宇都野京之丞正英
今之右衛門正親惣領
[illegible]松平三十郎組
同年秋澄様の[illegible]より来りし
宝永元子年十月十四日死 四十三歳

元禄十六未年三月九日

元禄十三申年十二月九日隠居

新発定晴養子

出雲守松平宍道

御書院番酒井中務大輔組　景茂　昇永内記定忠

同年秋弾正の弟小弟

西暦四千年十月十三日　葬入松平宍道

京都保四千六百年八月二日為公国周防ちゃ死

京都保十六年三月十二日死　年五十六

宝永二酉年三月九日

元禄七戌年三月十二日論有

御書院番酒井市郎兵衛組

[illegible]

宝永二酉年十月晦日 桐間詰番

宝永六丑年二月廿日一統[illegible]

但元御書院番酒井市郎兵衛組[illegible]

宝永四丁亥年三月廿七日

元禄十六癸未年六月廿三日発令ニ而
御小姓花守宣下ニ而名乗ル和

御書院番酒井右衛門尉　三百俵　神尾宮内三郎守親

神尾宮内三郎守好兄弟
小姓組番頭周防守組

改　宮内

年号月日不和　御入中川伊勢守組

宝保二酉年十月十八日浅草御蔵ヨリ
神尾治部三郎同弟花ヶ合玉野佐十郎
軽もよ仕セ　三人全の連中に加り追て
殺人金と唱ヘ人さらしと追く偽り善わの
士の家ヶ紛申頂ク殺事不届ニ付て遠敬ヶ
ヲ以て遠ケ　但石井治ル久尚伝ヘ

二子三四郎と称し、まて家絶し、
享保十七壬子年七月二日追放となる
享保十二丁未年六月廿日死

宝永六己丑年三月廿七日
元禄十己巳年七月廿日召出
御書院番頭并小姓組
福永内匠資信嫡男
中務信之助同断
福永宮右衛門資忠
西徳元卯年六月廿日番馬場清左衛門
同月廿日番中へ召出され芸之二枝と称す
西徳六未年四月廿六日死

宝永四丙戌年三月廿五日

宝永二乙酉年閏五月九日綸旨

御書院番酒井右衛門尉組　三宅儀　柳原七郎右衛門　長親

享保十六辛亥年十二月十九日　御服奉行

同年十二月廿六日　高辻修理大夫

勢州へ下向　享保十七壬子年十月朔日　西條

享保十七壬子年十月朔日　西條

御簾中御用人

同年十二月十六日　[illegible]

同年同月廿八日[illegible]小[illegible]として
[illegible]めらるゝ　[illegible]と称る
享保九年正月十二日
御[illegible]中様御年[illegible]
つとめ十二日白銀拾枚[illegible]と称る
同年七月十日[illegible]として[illegible]
[illegible]時服[illegible]と称る
享保九年十二月九日西[illegible]の御[illegible]用人
延享二年九月十日
大御所様御[illegible]用人
寛延二巳年正月十日御[illegible]
宝暦二申年六月十日

有徳廟の[illegible]として時服[illegible]と称る
宝暦六子年三月十九日[illegible]
同年十二月廿二日[illegible]三[illegible]と称る
[illegible]
宝暦十庚辰年七月廿日[illegible]

宝永六丑年二月五日

元禄六酉年十二月九日立太子
宝永三戌年　月　日歿月

御書院番酒井右衛門尉　三百俵　依因新宮盛祀

延享四卯年九月六日死　六十九歳

愚子盛隆恵成
御先代御小姓

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永六丑年二月十一日

宝永二酉年九月十日江戸御迎ヲ書

御書院番酒井右京亮

三枚目向守ヲ清濁

清濁

三枚ノ三箇守信

法手右

西德元申年二月十九日保科三枚伊豫ヲ

守繁ヲ以て四月十日ヲ遠藤右京ヲ

為ノ見ヲ三箇條ハ返ノ有ル

西德元未年秋、弾正の影響ヲ系ルも

享保二酉年六月十九日右京亮ヲ伺ヲ

命ヲ受ケ七月十八日酒井英之ヲ

以ノ酉年三月

淨瑠璃院殿紀伊國より〳〵もの〳〵法名
到と参り申候九月九日相て法名
享保四年十二月六日 御書院番組
作と参り〳〵

享保六丑年四月十日 御書院番組
同年十二月十九日 布衣之者
享保十年四月廿日 新御書院
享保十四年十二月二日 稽古合力
享保十六亥年八月廿日 死罪 六人

宝永六丑年二月廿五日
元禄二巳年御使之儀
元禄六酉年四月廿日御番下書
御書院番酒井右衛門組 三番隊 能勢市左衛門 能久
能勢新左衛門 能景 老代
御小姓 御小姓

享保二十卯年九月廿日 西丸御腰奉行
同年十二月十日 西丸より召出されて居る
召と参り〳〵して出人を仕と参る

正徳元未年秋 落城の影響より来る
享保八卯年三月廿三日 家重十七歳 同
上の御方様にて山吹の間より〳〵作
と参り〳〵 出人を仕と参る

元文元辰年十二月廿五日西條よりめされて
浅草へ参り〳〵相勤めさせて美濃へ帰る
元文二巳年十二月十四日又同〳〵事ゆえ
美濃へ帰る
元文三午年十二月十四日又同〳〵事ゆえ
美濃へ帰る
元文四未年六月朔日西條の浪人宮川番の所
同年十二月十六日布衣を免さる
元文四申年閏十月廿四日稽古会に列す
寛保元酉年八月十日死亡九歳

宝永六丑年二月廿五日　与力御勝清
元禄十六未年六月九日より和　御先代桐ヶ間清者
御書院番酒井右衛門尉　士分　押田仲左衛門栄勝
京保四亥年三月廿五日　小十人頭
同年十二月十八日布衣を免さる
京保九辰年十月十四日
若年寄稲垣摂津守に属する
京保十巳年六月朔日西條へ勢役き
仰付る
京保十九寅年八月十四日　御先祖頭

寛保二戌年六月十二日髪剃
同年十二月二日致仕之願聞届之儀
寛保三亥年閏四月四日死 六十六歳

宝永六丑年二月廿五日 九七郎房 号 竹代 桐 南陽書

御書院番酒井左衛門尉忠恒組 番頭 岡田豊後守

西徳元卯年十月十七日 髪入 松本伊豆守組

享保四亥年八月二日 落滝川摂津守支配

享保十乙年四月四日死 年 三歳

宝永六丑年二月廿一日

御書院番酒井下総守忠音 桐ノ間詰番 大久保六右衛門忠亮

寛延二己巳年三月廿日老職被蒙仰入道雪山と称し文政

寛延三庚午年四月六日死七十三歳

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永六丑年四月六日

御書院番酒井下総守組 御先手頭十右衛門広高養子

三百俵 小笠原求馬広封

後五百石 後十右衛門

同年十二月廿五日広高家三百俵を継く

享保六丑年十二月廿日宿直十七日を怠る

によりて黄金三枚を償ふ

享保十二年十二月二日加恩二百石を賜ひ

三百俵をかへらる

元文五申年十二月廿五日広封改

延享三寅年十月九日病により致仕す

〻〻面髮改て髮さまを

寛延元戊辰年六月十九日死六十一歳

宝永六丑年四月六日

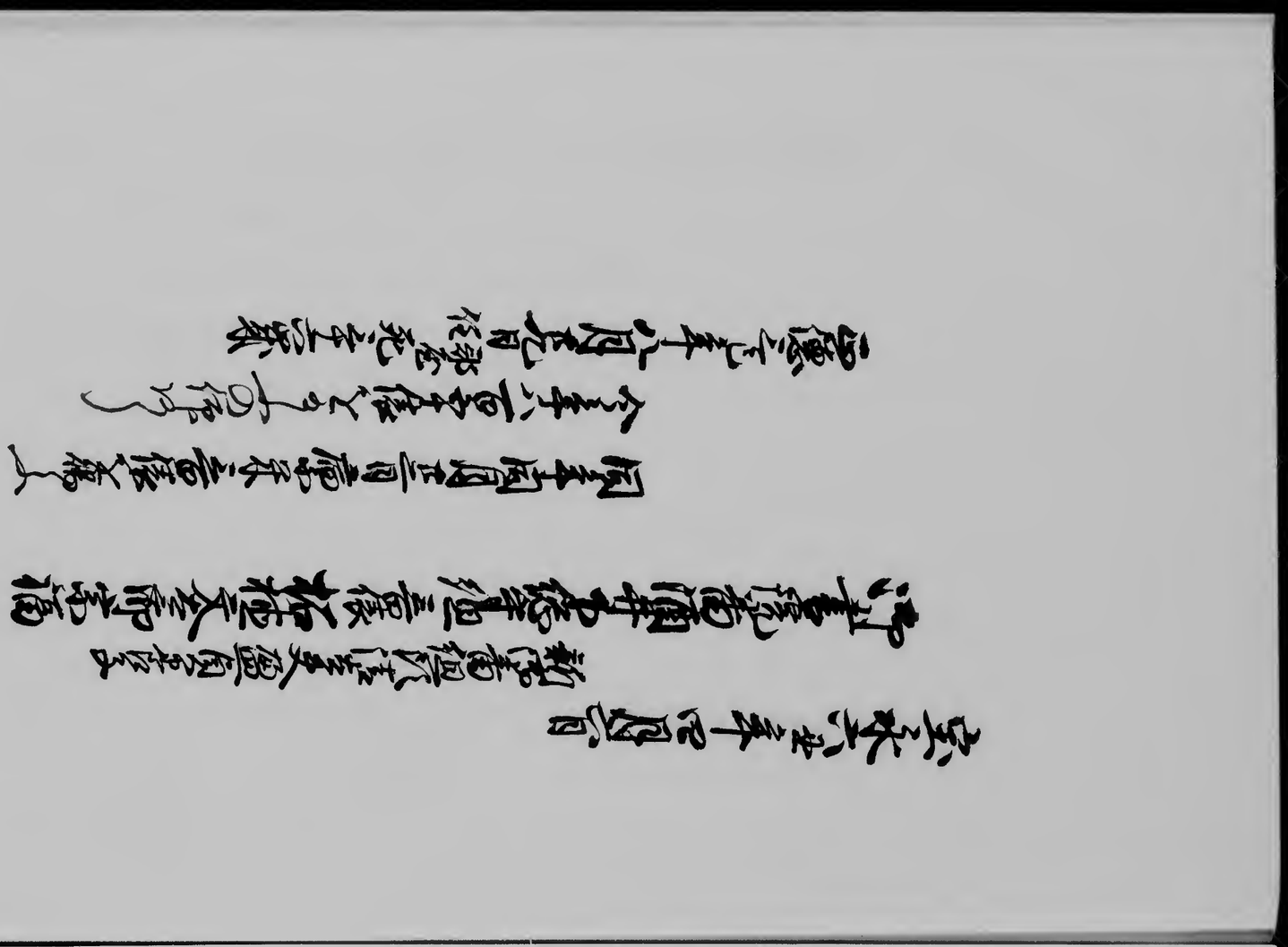
中人形長帝堂光想尼

御書院番酒井左衛門尉 三百俵 七人扶持 西勝

同年同月廿日 高家 三百俵 上杉

今年八百石俵上杉の作り

京保六丑年十二月十三日 郡兵衛 俗死



国立公文書館
National Archives of Japan

寛永六巳年四月廿日

西尾隠岐守殿より沈香壺一

御書院番酒井右衛門尉殿

同年同月廿三日

今年八百年忌に付

正徳五年秋法隆寺の

享保二乙年十月廿日

享保三戊年十月朔日

元三年十月朔日

宝永六丑年四月六日

御書院番酒井市郎兵衛組　三百俵　水野六郎兵衛　家

流罪三百俵

同年同月十三日廩米三百俵を賜ひ

今年八百石俵となる

西暦一七〇七年十二月廿七日　海内罪三百俵

となる

寄合となる

享保元年八月廿三日和泉入鹿川移住を免

京保九年八月廿三日甲斐勤番を

免ぜられ一生有馬出羽守支配となる

寛延二巳年九月生田孫左衛門ヨリ古来ヨリ
之の儀池田新七百姓ヨリ書無之
ヨリ限中ヨリ之ヲ飛ヲ之上之儀の
ヨリ之事者ヲ判元ヲ不出ヲ文ヲ改
ヨリ稼ヲ新七眼ヲ之ヲ以ヲ之儀ヲ
文飛の利解ヲ不用新七ヲ対稼ヲ以ヲ
ヨリ之ヲ国の市値ヲ守ヲ者ヲ
ヨリ行ヲ以ヲ限ヲ市中ヲ米ヲ大勢
ヨリ之ヲ出ヲ限ヲ之ヲ法ヲ者ヲ事
ヨリ侍の設ヲ伝ヲ設ヲ易ヲ之ヲ
石河左衛守改朝付ヲ当ヲ儀ヲ奪
ヨリ之ヲ

宝永六丑年巳月六日

一ヲ御新田ヲ開人ヲ家郎ヲ定和出所
御書院番酒井中務守組　三百俵　安藤久之助定泰

同年同月ヲ二百扈従ヲ三百俵ヲ給
今年八百石俵ヲ給ヲ乃伊勢
享徳巳年二月ヲ月ヲ名ヲ書
享徳巳年十月廿日　新番　御中奥組　秋元隼人　四組

宝永六丑年閏八月六日

御書院番酒井右衛門尉忠徳手組　三番儀　戸田忠次郎　忠澄

後　富士之介　九郎左衛門

後　豊千代

同年六月廿日廃米三番儀ヨリ浪人

享保七寅年閏八月廿日父跡仕家督言渡

四千石九郎左衛門余是ヒ三番儀退ク

延享元子年十二月朔日死亡　六十八歳

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永六丑年四月二日　　若川治兵衛　和泉帯刀　資時　惠辰

御書院番酒井右衛門尉　三百俵　中務　治部　帯刀　資忠

同年同月廿五日　扈従　三百俵ヶ宛

今年八百石俵ヶ宛　仰付ル

正徳元卯年　秋　諸城の警固ヲ命ル

享保十二申年九月廿七日　父矢四郎ヲ

宛ヶ二百五拾石　老職　養子ニ

延享四卯年四月十三日　老職　養子ニ

同年十月十九日　致仕

宝暦元辛未年四月十四日死七十七歳

宝永六己丑年四月二日

御書院番酒井右兵衛尉定春 桐之間番高力左兵衛尉定教長男

同年同月廿一日 廟参所ニ而平伏と為

右年より三百俵と為る

享保十年辛巳年三月廿七日大公儀御時

近侍致候ニ付

元文四年己未年六月十七日 父定春ニ而

ちゝの跡同しく九人遺跡と云ふ

延享二乙丑年八月二日死 六十三歳

宝永六丑年四月廿日

御書院番酒井下総守組　三百俵　山下隼人勝行

後ニ三百石　改市兵衛

同年同月廿六日　扈従ニ　三百俵ヲ給ル

今ニ年百俵ヲ乃作ル

享徳元未年　秋諸城の警備ヲ命ル

享保元年十二月七日　家督ニ三百石

もとの三百俵ハ弟ニ奉る

享保七寅年十二月十二日　稽入有馬内膳之亮

宝暦四戌年四月廿日　致仕

宝暦六年六月廿日死 七十三歳

宝永六丑年四月六日

御書院番酒井右衛門尉忠守組 三百俵 宝賀喜内 西丸

御中奥御小姓組 三百俵 渡辺三郎右衛門尉 改 隆一郎

同年同月廿六日 廃家 三百俵之儀

今年八百石俵之内 伊勢

西徳寺事 秋谷慎の助 事

元文三年十二月廿日 西丸 三百石 之内

三百俵八五人扶持

元文四申年 正月廿日 死 四十八歳

宝永六丑年四月六日

御書院番頭井上伯耆守組三番俵　作馬源太郎佳言

同年同月廿三日病死三百俵之病

今年八百五十俵之内の仰付

正徳元年十月廿日父矢吹[illegible]

[illegible]の料同[illegible]九月八遠藤[illegible]

正徳四年十月廿日[illegible]

享保六丑年九月廿六日死三十六歳

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永六丑年正月廿六日

[illegible]

[illegible]書院番頭井上伯耆守組　三百俵　太田次郎八郎

同年閏月廿三日　扈従ニ三百俵ヲ賜フ

今年八百石俵ヲ賜フ乃作付ル

正徳四午年二月廿三日　弟全　死

宝永六丑年四月廿二日

御書院番酒井右衛門尉

同年閏月廿三日廟所三百俵ヶ福

今年八百石俵ヶ之内の仰あり

享保十巳年六月廿日 那谷 稲入青木左馬之丞

享保十二未年七月晦日 名跡ヶ

三百俵八人ヶ奉る

享保十六亥年二月晦日 但西城の御書院番

安永七寅年五月廿六日

御書院番稲葉紀伊守組　三宮儀　松平右馬信道
（御先代清水徳川家　家斉公松平右馬頭　一橋斉位子）
後昌儀　政事右馬

同月廿六日三宮儀ヲ以テ

正徳元年秋　強盗の為ニ殺ル

享保十六年八月廿日　家督ニ付儀

ヲ以テ三宮儀ハ父ヲ老ヲ理ル科ヲ以テ

享保二十卯年八月三宮儀入牢忠昌帰支配

同年十二月廿日死ス九歳

安永元辰年後守組ヘ御番

国立公文書館
National Archives of Japan

正德元年己卯十月十八日　小野八郎左衛門尉泰質出家

元祿四年辛未十二月十五日　桐壺院御書

行書院書稿葉室右衛門佐　元祿四年藤原定長　畫像　權大中臣左衛門尉泰盛

泰盛は初めは權大夫なり後〳〵なる

泰盛の父小野八郎左衛門尉泰質は權大

小中將泰朝の次男なりと丑年より

中臣の氏を以て名乘る

宝暦三癸酉年八月十二日死年六歳

正德三巳年六月十八日　板倉四郎左衛門　藤右衛門

延宝三卯年七月十三日　[illegible]　桐間沖右衛

御書院番稲葉[illegible]守組　三百俵　板倉[illegible]

正德六年秋　[illegible]の家[illegible]

享保七寅年三月廿七日　小金御[illegible]に随ひ

享保十六亥年四月十二日　[illegible]

[illegible]

享保十九寅年四月廿八日　老[illegible]

延享三寅年二月十八日　死　八十三歳

正德元年十月十八日　　桜井吉左衛門改長恕所

桐ヶ間清蔵

宝永四亥年七月廿六日清蔵

御書院番稲葉若狭守組　元禄四巳歳

三番俵　桜井吉左衛門改秀

享保十八丑年六月十三日死

正德六申年秋強盗の宿致すよし

正徳三巳年六月廿八日　左兵衛尉時久奉仕

桜田義根　桐間紀伊守

御書院番稲葉若狭守殿　三番組

京保三戌年七月廿二日死　平間茂平衛尉時勝

国立公文書館
National Archives of Japan

享和元辛酉年九月六日

山田平左衛門重政三男
山岡市郎兵衛奉行

御書院番稲葉右馬之允組

山田三郎左衛門利貞

享和元辛酉年秋諸職ノ部ニ階ヲ進ム

文政元戊寅年三月二日老職賜暇参ニ拝シ入浴井上左兵衛ノ邸

文政十己亥年六月廿二日死七十八歳

正德元年三月廿日

元禄元年　月　日　諸機関譜代

御書院番稲葉右衛門尉　元機関譜代　千三百石　天野主水康堂

天野市兵衛の康能惣領

山城守信之の婿肥前守組

同年秋諸職の家也より系図

享保八卯年十月廿日　隠入伊丹兵庫の支配

享保十六申年十二月三日　致仕

享保十七亥年十月八日　死

正德元年三月五日

右衛門尉改武藤氏
中務少輔左馬頭兼右京亮
従五位下

書院番稲葉右京亮正則組
番頭

寛保元年三月十八日老職稲葉美濃守正知入道宗心
従五位下美濃守

延享四年七月廿日死去

西德四年三月廿一日

佐野与七郎改信惠

西德四年十月廿三日辞

御書院番稲葉右馬之丞組千石 佐野与七郎改春

後与八郎

同年秋落髮の命出る

享保二年二月十八日丹後国宮津城

引渡清用之命出る 二月朔日清雅美濃

守に叙せられ 二月廿八日御小

手番

享保六年二月廿八日 御使番

同年十二月十八日布衣之儀出る

享保八年八月七日 法華宗ニ法門ヲ
ヲ以テ訴ヘ出ル ○日月不詳
陣脇美濃ニ於テ 切腹ニ処ス 十月廿八日
伺ヒ 御下知ヲ

享保十年九月廿五日 諸寺諸宗
享保十二年 寅月十日 陣脇美濃
於テ 切腹ニ処ス

享保十七年 十月十日 京小路
法華宗 御下知ヲ

享保十八年 寅月十日 釋尊会ヲ列ス
寛保二年 十月廿日 死亡 京都

西暦 安永 年 三月廿五日
寅年七月廿日 [illegible]
[illegible] 書院番 稲葉[illegible]組 手右 溝口[illegible] 摂勝
溝口九門 [illegible]
[illegible] 松平[illegible]組

同年 秋 法華宗乃 [illegible]
享保十七年 二月十九日 松平伯耆守
[illegible] 彼ヲ 誠ニ 福井ニ
[illegible] 訴ヘ出ル ○日月
[illegible] 美濃ニ於テ 十月廿八日 伺ヒ
法華宗

享保十二年 十月十日 西丸御書院番組

同年十二月廿一日御免之上ゟ出家
元文元辰年九月十八日御出家
元文二巳年六月廿日薨代乃不勝
年毎ゟ少々宜敷ゟ弱のゟ
廟所手儀ようゝ終る
延享元子年六月十八日死亡中業

四德元寅年三月廿一日
寛永七寅年十月廿七日家督
御書院番稲葉右馬頭守組
石巻七郎兵衛
高八千
二石ゟ年
元年ゟ
ゟ徳川家宗譜代
出羽信松年ゟ年以組
享保十巳年六月十八日西丸御徒頭
享保四亥年八月十八日ゟ出家
享保十八丑年六月廿七日死亡中歳

正德元年三月廿五日

中御門宣為卿奉

宣下 松前左京亮殿

正德二年七月晦日渡目

中書院黄福兼若狭守殿 千石 外記新七郎 宣旨

政忠卿

同年秋諸侯乃家督を弟に

享保九年六月九日死 四十二歳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

享保四亥年十月十八日　中保房奏子
参合

享保二酉年八月十二日晴　御書院番戸田肥前守組三千石　服部中保貞
後大和守

享保十一午年二月廿八日御使番
同年三月廿七日小金牧廉御特のうきと
御供を隨ひて騎馬の御用を勤め
同年七月朔日大坂御目付役を命ぜらるる
八月十四日御暇賞令仰せ蒙り明の四月
朔日御ゆるされ八月御渡す
享保十三申年四月　日光口詰てさせ

の八幡八坐之御用とする
享保十三申年八月二日公事懸見色
為ゐるきよ作り
享保十六戌年二月廿八日西丸御用
元文元辰年七月
惟信院殿山言の御屋に為ゐられ
居るせの御用と暫てすると
ゆめまして附版と為る
元文二巳年
竹内氏君紀葉山山王に始て来を
移す御用とする事海
のち附版と為る

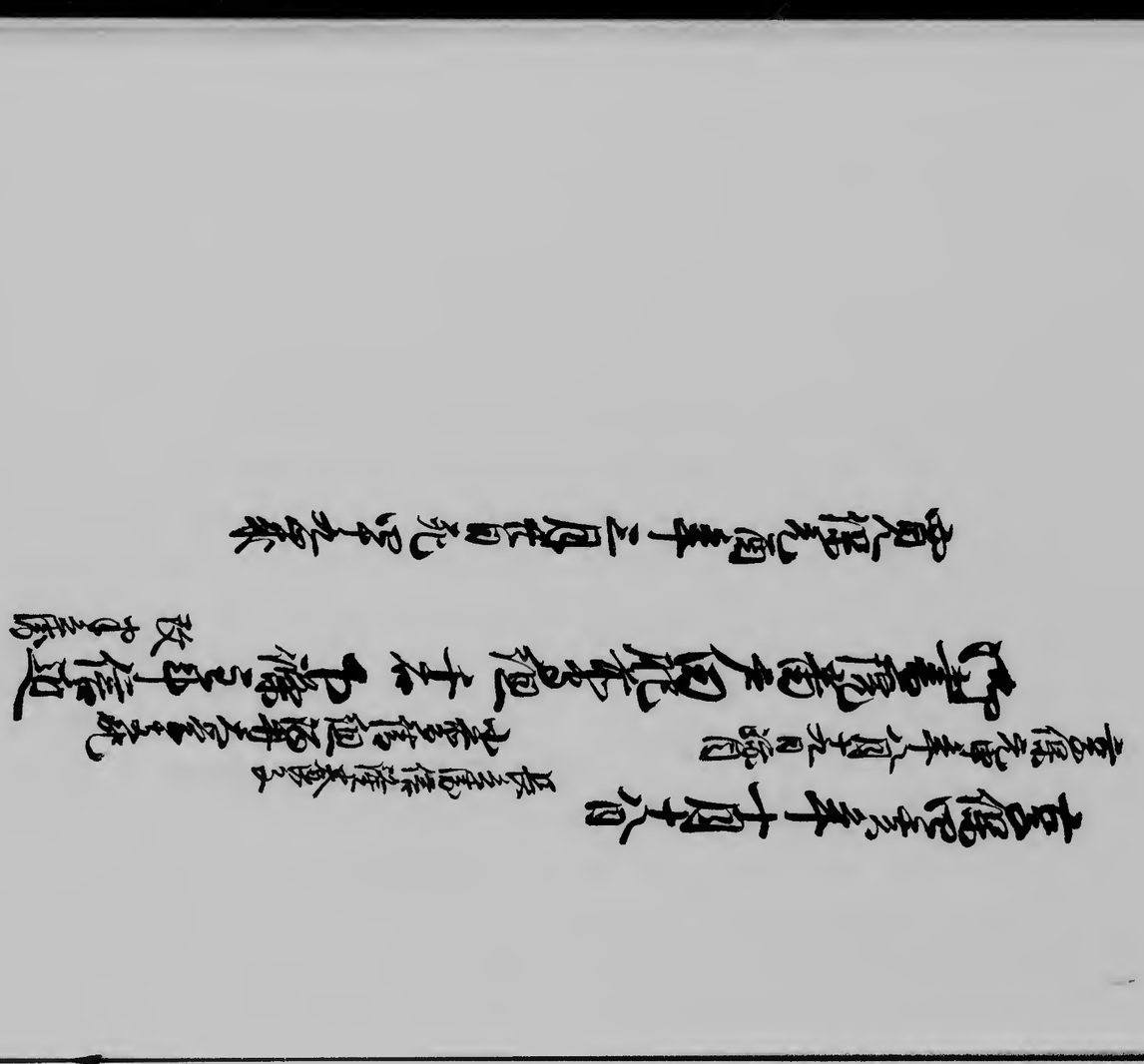
元文四巳年九月廿二日日光奉行
同年十二月十六日叙爵に任ぜられ
元文四申年七月十九日日光の諸堂
社中輝寺と称する事を移す
に伴て彼帝山の行也
名代 豊後寺 と改 英名 と為る
寛保三亥年七月日光の
御宮御修繕の事を移す
作り
延享元子年九月十八
西廻宮乃事有りとして附版を
為る

延喜三年六月十日御修法事行
寛延元年七月廿日朝鮮の使
来りし時之諸寺と為せられ
御用と可しに依て言されて
叶はざると為る
寛延二乙巳年九月十六日惜しき事の
思召しの宣旨と為せられし
事と云しによって叶はざると為る
同年閏五月朱雀門
大蔵院殿百回忌に付しを為ひ
しに依て日光山にて御法事行せと
今日事有まして御用の事と

命ぜらるも
同年閏五月十六日大炎と為せられし
事と云しに依て叶はざると為る
同年十月十日明の年の御法事の
事に依て日光の御山と御事小依て
行せらるべきと云しよりまたまた
十一月廿日御服美なる故叶はざる
旨と為し事云しに
御ありし
寛延二年三月十日日光の法華
つとめられて御服叶はざると為る
四月御法会の事云しに五月十日

御ゆるしをもって　台命を蒙り
同年二月三日に当年をもって時服
二領
同年七月九日日光の
御宮を修造し終り奉行の奉行と
命ぜられ八月十四日御出立まかり
帰り申のよりて御服黄金拾両時服三
羽織一領　十月朔日御目見ゆ
台命と御手明の宝暦元来年
四月朔日又日光ゟ帰りて御帰
ゟ御服を御出黄金拾両時服三
羽織一領　拾両ゟ賜る

御用の事有て江戸ゟ京ゟ
宝暦元来年三月廿日田安の御館乃
家老ゟ命ぜられ
宝暦六丙子年八月十六日稲寄合
四年十二月十二日致仕永籠ゟ
又致休ゟ致
宝暦八寅年七月二日死六十二歳



国立公文書館
National Archives of Japan

享保四己亥年十月十八日

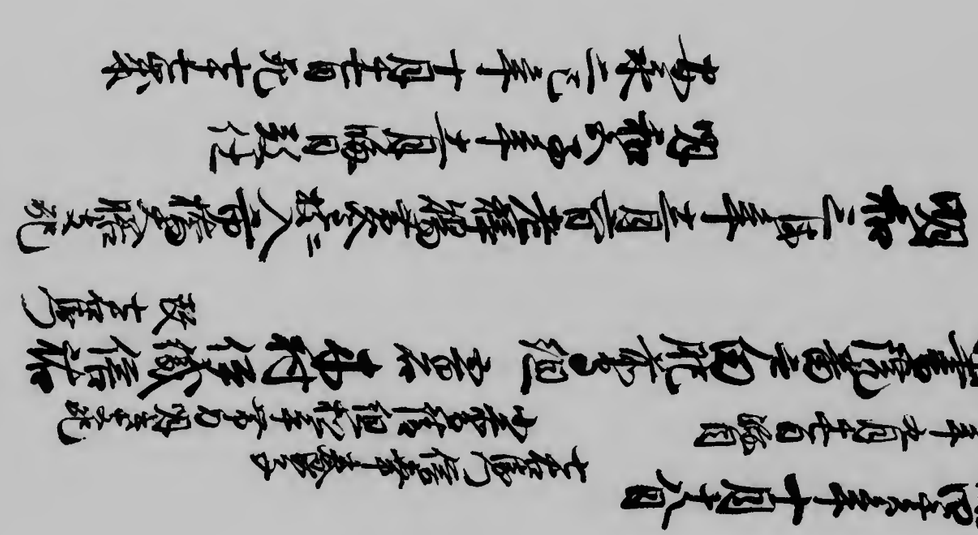
享保二酉年十月十日家督

三宅信濃守重儀養子

小笠原但馬守殿御家来

書院番六田肥前守組 高五百石 三宅五郎兵衛 改平兵

延享四卯年四月十六日死 六十歳



国立公文書館
National Archives of Japan

享保四己亥年十月十八日　武蔵国利根郡
小雲雀組松平常房知行所
実永四千己年八月廿日婚
御書院番戸田肥前守組　三百石俵　小幡七郎兵衛宣光
改　武蔵国

延享二乙丑年十二月十九日死亡　三家

享保四己亥年十月十八日　浅野帯刀殿幸侃逝去
山宮信濃守殿公家門跡ニ成
正徳四甲午年十月廿九日晴
御書院番ニ而肥前守殿　三宝院　浅野内匠頭殿
浅野帯刀殿

元文四己未年十二月十二日　稱入少系新発之死
寛延三庚午年八月十日　死

寛保元辛酉年十月十八日

天野遠景加賀守奏聞ニ付
十月廿日綱人高周清水ニ於
御書院當元田肥前守組三人宿
天野清三郎正勝
改安高

寛保元年十月廿六日酉刻ニ
御書院當元田肥前守組三人宿
天野清三郎正勝

寛保十七丑年十二月廿六日西刻ニ而伊達
の三郎ニ対し遠慮ニ付ち仕候て
暇ニ相成同月廿七日西刻小石川ニ
附渡之ゟ預る

宝暦九卯年十二月十三日十七ツ半時
常盤小路小ちくさ屋ゟ出火ニ付て美人之
数ゟ預る

明和元甲申年八月吉日 老稚福美令枝入古波大雲寺死
明和三丙戌年十二月九日死 七十六歳

享保四己卯年十月十八日 芥川主馬元春 橋本兼祖
宝永四丁亥年閏四月 日 蔭月 山崎佐祖 滝川儀左衛門文死

御書院番戸田能登守祖 三百俵 芥川主馬元陳

元陳ノ父主馬元恵ハ新田信濃守祖父
元春ノ橋田御殿小者ヘ内ニ召出ラレ
御小性組ヨリ列ヘ又徒頭トナリ宝永元
甲申年十月十二日西丸御桐の間御書ヲ以テ
内ニ呼ル申刻新田信濃守ヲ以テ
ヘ祖父ノ兼祖ヲ召ル

享保十六辛亥年四月六日死 年六十六

国立公文書館
National Archives of Japan

十月十日百姓不出候

享保元年三月十三日

若年寄より刑部書を
出雲信濃石川主殿へ
改助番

寛永六巳年二月廿三日御用

御書院番戸田肥前守組　三番長　能勢禍之助頼常

享保十三申年九月十二日大御所様御病気
の為に列座仕り候事申渡候　時服二ツ賜る

享保十六亥年二月晦日

浚明院殿御座の為て日光遠参の人数
手当献上明の二日西城を立て出発
對馬守信友組信任と伺て出て時服
三ツ賜る

宝暦九卯年八月廿三日 死亡二人

宝暦九卯年七月廿三日

御書院番 [illegible] 三百俵 [illegible] 隼人 [illegible] 坪 [illegible]

元文二巳年十月十日 [illegible] 西丸御書院番組氏

[illegible]

寛保二酉年 [illegible]

三百俵八人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

宝暦三酉年四月廿七日 [illegible]

宝暦四年三月廿四日 元京都

享保九辰年七月廿二日

御書院番衆仮役守組三番儀 渡辺三郎兵衛殿

享保十乙巳年十二月朔日 西尾隼人組

同年同月十九日 布施主水殿

享保十丙午年閏九月十二日 遷宮千石

元文四年十月二日 西尾隼人組

同年十二月十八日 叙爵仰出

延享元甲子年 付朔日 辛酉年

享保九年十月九日　朝倉筑前守豊房朝臣

元禄元年三月五日源朝臣

御書院番頭兼侍従守組　千石　朝倉筑前守豊房

享保十七年四月十二日

時信院殿高西の方ゝ逝去ゝ給ふ

御位牌ゝて寺社奉行同月大目付へ

届ゝて叶殿ゝと仰る

元文四年七月十九日御位牌

同年十二月十二日布施ゝと名さ也

延享元年十二月十四日移ゝ合ゝ引ず

寛延二巳年四月廿日死 廿七歳

享保九辰年十月九日 新八郎利祐 寄合

寅年六月廿二日 養子

御書院番 長谷伊勢守組 富岡千之助利林 改 新八郎

享保十丙申年三月廿日死 三十六歳

寛保九己酉年十月九日　　土右馬寺道[illegible]

元禄十[illegible]子年十月[illegible]日[illegible]　　寄合

御書院番[illegible]伝[illegible]寺組　高[illegible]長田十[illegible]守乾

役土右馬

寛保十己酉年十二月朔日　西尾[illegible]

同年閏月十八日[illegible]

元文二己巳年六月[illegible]

竹千代君乃御出[illegible]

寛保元酉年十二月八日　釋[illegible]

宝暦四[illegible]年九月[illegible]日　致仕[illegible]

一[illegible]

宝暦十辰年十月廿二日死亡之家

宝保九辰年十月九日

宝保四巳年九月廿七日婚姻

仙洞院南丹家信様御守袖置候 詮子様 寄合

寛延三午年八月廿六日死

国立公文書館
National Archives of Japan

享保九辰年十月九日　小出弾正殿守頃忠殿

享保六丑年二月十二日家督　小出信濃松平乙次郎殿守之死

御書院番安藤伊勢守組千五百石　小出隼人守安

寛保二酉年三月十二日隼人仕中用信守之死

延享元子年十月廿日　彦仕

宝暦八寅年二月十三日　死亡家

寛保元年十月九日

西暦二千年九月吉日謹書

[illegible]八日次春[illegible]子

小[illegible]伊織組[illegible]勢出[illegible]守[illegible]死

御書院番[illegible]伊勢守組千[illegible]

[illegible]村[illegible]

改[illegible]八

元文二年七月[illegible]日死

寛保元酉年十月九日

平井久右衛門儀養子
出雲守信濃勝出雲守儀死

寛保七亥年六月九日遁世

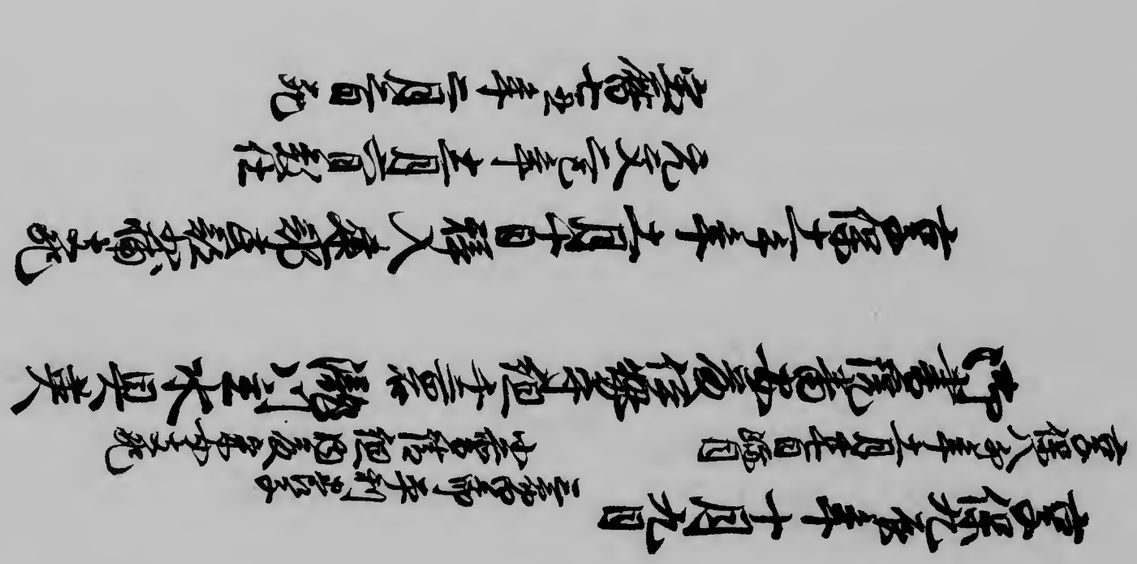
御書院番兼役信濃守組番士 平井久次郎常豊
改 出雲守

寛保二酉年十月十七日隠居入福居左衛門儀死

寛延二巳年二月養方の大伯母敬宗尼
病死に付 御雑義とゝ願候儀
五月十八日 遍寒と命ぜられ 八月八日
死去

宝暦九卯年二月十日死 年八歳

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

享保九辰年十月九日

三島九萬蔵組惣代

左様ニ申ス年十月十九日彦根田端

桜田蔵

書院番安藤信恒

安藤信恒四条家家来死

御切腹ニ付千二百石

花房三郎九萬蔵留

享保十九寅年十二月十八日死亡ス

享保九辰年十月九日　次帝右馬頭存養之
出雲佐須出羽守之死

享保十三戌年十月六日帝崩

書院番五番組伊勢守組　竹本喜内二貫
政宮右馬

寛保二壬戌年十月十四日　稱入長慶院公之帝之死

延享元子年十月十日　新位

延享二丑年九月廿八日死

享保九辰年十月九日　左兵衛督通躬卿奏聞

享保九年十月十日家督

山城守信濃守儀可申渡旨

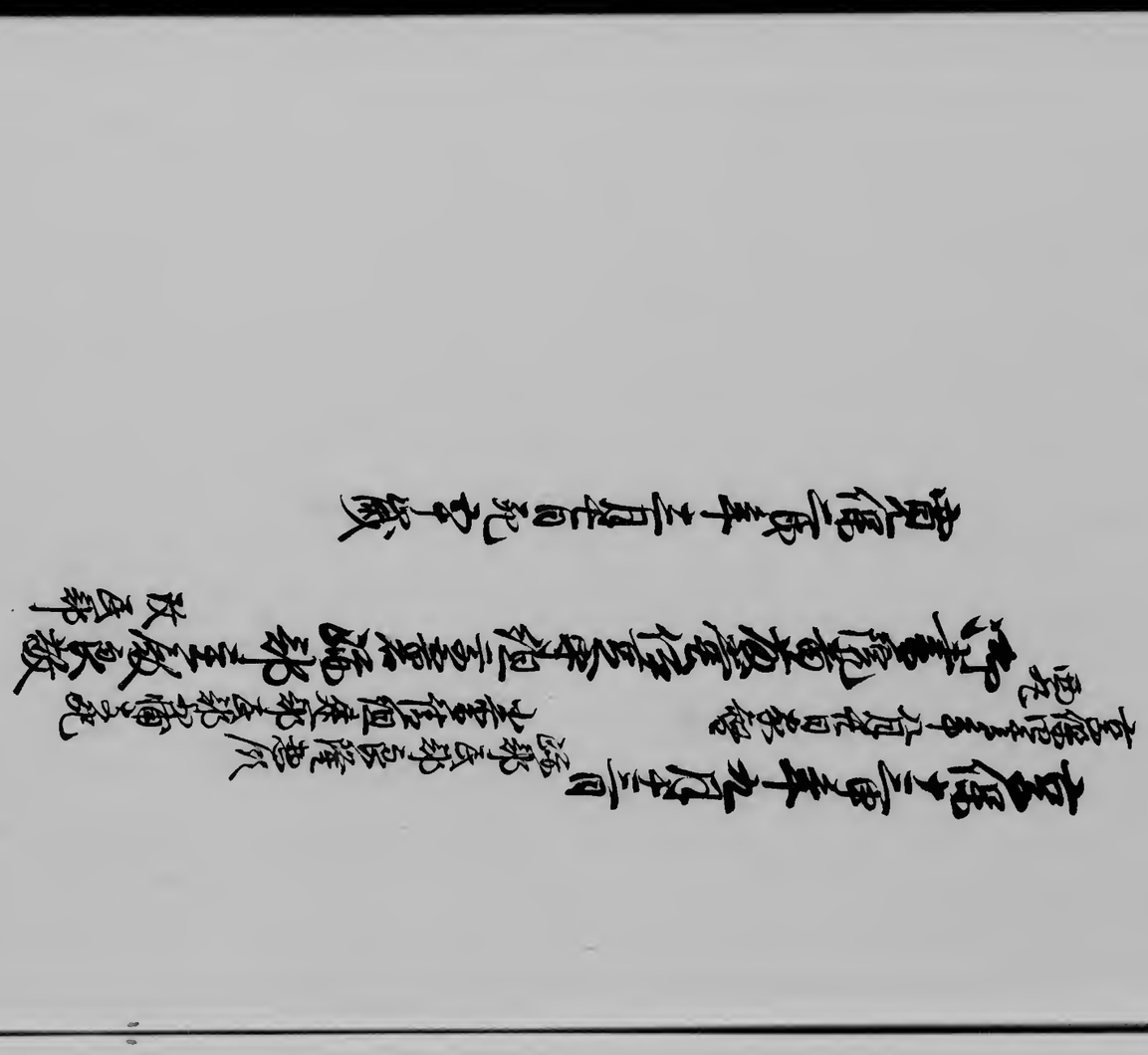
御書院番安藤伊勢守組　富岡　河野伊織通宿

改　山城守

宝暦二申年十月十日死亡家督

享保九辰年十月九日　三馬一童奉公
享保六丑年八月二日暇
出雲信濃守殿右筆ノ支配
御書院番安藤信恭殿組三番隊　滝川十三郎一積

安永七戌年十月二日老齢福美金二枚入大酒之事ニ支配
安永八亥年六月廿八日死七十六歳



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

享保十三申年九月十三日　西尾寺忠亮忠凡
　　中奥小姓組青木右馬之丞

享保十二未年十月晦日濟
西九　御書院番兼侍医寄組二番　山口図純忠倫
　　改　孫次郎
　　安房守

元文四申年九月廿八日病傷書

同年十二月廿二日　本多忠之忠之

寛保元酉年十月廿二日　新庄藩国元ニ而
脇差ニ而　周之丞忠之　忠の助の由年
三月朔日　水腫ニ成　廿日
病ム　病死

延享四卯年二月廿二日

院乃御新時

同年三月和日御服装全部改正服

服装之儀〳〵

同年　月　日浴衣を以て

院参〳〵て叡尊法仏御参内之儀

寛延三年申月廿三日

仙院御崩御前て後園寺公子

寛延三年十月和日一院崩御に付参会

引き

同年同月十八日御先祖代

宝暦元年十月廿八日稱号参会引き

明和元申年　月十三日　致仕

明和六丑年　八月二日　年　八十二歳

享保十三申年九月十三日　加賀藩主前田吉徳
小姓役組松野八郎兵衛次男
死

享保八卯年十月廿六日溺死

御書院番夜詰役　千石　保々長加賀守

寛延二巳年七月二日　西丸御小姓役

宝暦十巳年閏十月二日　御小姓の輩へ大番を〳〵申

宝暦十二年十月十日　御先手役

同年十二月十日

若年寄の御方へ降〳〵申

宝暦十三未年九月十日　死　年七十六

国立公文書館
National Archives of Japan

寛保元年十二月十三日　中納言従二位藤原朝臣
中納言従二位藤原朝臣薨ずる

寛保元年十二月十三日　御書院番頭
従五位下長谷川中務少輔

寛保二年八月十九日　西丸御小姓ニ
同年十二月十九日布衣ニ召出さる
元文三年

竹千代君の御方に附さるべき
寛保二年三月朔日　御留守居
延享二年閏十二月十三日
利根姫君乃御方へ附かきりと奥の御役

大寺寺占送見事〻〻ふ所々び
事〻〻きこし命ぜ〻て西服黄金拾
四枚二服織と給へ別ようう〻仰し
〻て今年五月十八日同月十八日
宣旨を〻て道さう〻公卿四位殿上
人を〻て〻て他家より事〻四の二月
六日事〻て〻殿の功と〻て
二月四日より〻〻青海給す
寛元延元年九月十三日御出家
実暦四年六月十三日死去四十四歳

寛保十三甲辰年九月十二日
寛保二壬申年十二月廿六日参内
四十九
御書院黄梅堂住長寿和尚
寛保十四甲午年閏九月廿日死

嘉保二乙亥年九月廿三日　　織部英資書状

山城守信通　　左衛門大尉藤原朝臣

嘉保二乙亥年六月二日宣旨

覆　　御書院前右大臣信長卿宣旨　　左大臣　藤原朝臣　資房

延喜元年二月廿六日　　西覆　御書院前内大臣

同年十二月廿六日　　右大臣

寛暦八年四月廿三日　　兎宣旨

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

寛保元年三月晦日

寛保元年辛酉三月晦日

西丸

御書院番頭雲州隠岐守組　高木　宮城教馬和道

改　忠郎

安永七戌年閏七月十日老稲鴨美濃守入来井監物義

依多年之勤功

天明三卯年十月朔日元七年七月

享保十六亥年三月吉日

享保十六亥年十月吉日

御書院番頭 岡部長雄 組 長倉 細井長三郎 西方

安永元辰年閏十月十八日死 年二歳

享保十六亥年三月廿日

享保十四酉年十月十八日家督

御書院番高力清長組三番騎 天野加市康泰

改 高力清長

享保十九寅年十月廿日病入ル 同日跡目相続 馬ヲ死

延享四卯年十月三日死

寛保二年卯年三月廿三日　左之通従門番所
寄合

寛保元酉年八月廿三日　御書院番水野清四郎子組三人右　祝儀之儀通門

延享元年十月廿八日　諸国巡検使と
命ぜられ十二月廿九日北国へ巡
る為御暇願　明ノ宝暦元年四月廿日御暇
願今日　御暇願　八月廿日御暇願

明和元甲申年四月十日御使番
同年四月十日　布衣ゟ之儀ゟ

明和二百年二月廿日紀伊美濃守殿
逝去あるに水戸中納言殿
乃きより御あつて美濃守殿
水戸殿より明和七寅年八月二日死亡家

京都二十四年三月廿三日
寛永六巳年三月十二日晩
西丸
御書院番水野河内守組
長谷新三郎景恵殿
寄合
長谷兵三郎景武
寛暦十三巳年四月廿日死亡家

享保元年卯年三月十三日

享保十四年酉年六月廿日踊

御書院番水野清四郎清久生母清人生母ニ而清人生母ニ而清人ハ後助之丞

高永三子年三月廿日老病福寿全ク入棺之節ニ死

高永申年八月廿日教仕

高永八年八月廿日死年来

享保元年卯年三月廿三日

新発見

享保十六亥年三月廿七日死去

異

御書院番水野河内守組与力大久保伊之助忠郷

改新発見

延享四卯年三月廿三日在陸奥野乃

宗兵衛ゝ毎ゝ年貌ゝ之れを彩絵

免さるゝて暫の間屋敷より御ゝ

宝暦八寅年三月廿日隠入鴻田左右之助支死

享年三十年十月廿日死亡年六歳

寛保元辛酉年三月廿三日

寛保元辛酉年四月二日晦日二百石

又右衛門一馬ヒ小和二百石

西光

御書院番水野河内守組　二百石　高木主殿左次

改　又三郎

又三郎清英出仕

小普請組へ番替ニ成る

元文二乙巳年十二月廿日西光病死

同日布施左兵衛ヒ

寛保二壬戌年六月十日布施左兵衛

新丸の御門法懐寺　と号ス

延享二乙丑年九月朔日布施摂津ヒ百俵

ヒ〻の御門

宝暦十庚辰年四月朔日西光ヒ百俵

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

享保二十年三月十三日

享保十八丑年十月六日歸府

[illegible]

御書院番水野河内守組 三番 河内主水正盈

寛保元酉年九月廿九日隼人長吉小人三郎出死

宝暦六子年四月廿日致仕改白髮之云

安永六申年四月十三日死七十八歳

寛保元年九月十九日

西丸御書院番水野河内守組　三番騎　柳田仁徳勝輝

後仕官　後仕官

寛保二年十二月二日家督七百石

はじめての三番騎父う老とゝのひ料を賜る

延享元年十月廿二日妹智子を養子

とし跡式相続仕ゝ命ぜられ九月十八

日妻八妹ゝ九八勝輝より引渡ゝ

旦宗和ゝと相続ゝ九月廿五日免さる

同三年十二月廿二日日光の　西廻宮旦

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan